

## ナガボノウルシの生態と防除対策について

近年、熊本県内の特に平地で問題になっているナガボノウルシについて、発生時期、生育特性と熊本県における発生分布調査の結果についてご紹介します。



ナガボノウルシの花序（左）、生育中期（中）、成植物（右）

### 【ナガボノウルシの特徴】

- 微細な種子を数多くつけるため、一度圃場に入ると根絶が困難になる。（一つの花序から多数の花をつけ、それぞれの花から多数の種子を落とす。）
- アレロパシー（忌避物質）を出すため、近くには他の雑草がはえにくい。

## ナガボノウルシの発生時期と生育について

ナガボノウルシは水田では**移植後10～20日頃に最も多く発生**します。その後も発生はありますが、移植後23日までに全発生数の約9割が発生したという調査結果もあり、**初発個体の防除が最重要**です。

6月末～7月上旬に発生したナガボノウルシは、**7月下旬頃から開花**を始めます。生育の早い個体では発生から約20日で開花を確認した調査結果もあります。開花したナガボノウルシは種子を作り始めるため、**取りこぼした個体は開花前（7月下旬頃）までに防除**し、種子を作らせないことが重要です。

ナガボノウルシの種子は、写真の約5mmのカプセル状の**1つの蒴果（さくか）の中に、約800個もの種子**が詰まっています。ここから1個体あたりの種子生産量を計算したところ、大きな個体では何と**1株で100万個を超える種子を付ける**ことがわかりました。



蒴果（さくか）



種子長約0.5mm

## まとめ

- 発生のピークは移植後10～20日頃 → **初発個体の防除が最重要**
- 開花時期は7月下旬～8月上旬、1株の種子生産量は100万個を超える可能性 → 種子生産量も多いため、**開花前の防除が重要**

## ナガボノウルシの発生分布



昨年度（2023年）、県内の発生状況を調べるために分布調査を実施しました。結果、県内30地域81筆の水田で、ナガボノウルシの発生が確認されました（図の赤▼の地点が発生が確認された場所）。水田の多い平坦地を中心に広く分布しており、また、中山間である阿蘇市や球磨郡でも限られた一部の圃場でしたが発生が確認されました。熊本県以外の隣県（福岡県、鹿児島県）でも近年発生報告があり、今後も分布拡大が懸念されます。しっかりと防除を徹底しましょう！

## 試験結果の紹介

試験場所：熊本県内ナガボノウルシ発生圃場  
試験薬剤：バイスコープ1キロ粒剤  
散布日：7月19日  
発生状況：20～30cmのナガボノウルシが繁茂

開花前の  
防除に！



【散布前：7月19日】



【散布13日後：8月1日】



新たな展開葉に  
症状が現れる

赤枠で囲んである  
バイスコープ1キロ  
粒剤処理区内のナ  
ガボノウルシは完  
全に枯殺。  
無処理の赤枠外の  
箇所には60～90cm  
のナガボノウルシ  
が繁茂。

【散布20日後：8月8日】



【拡大写真】



※開花後は液剤での防除が有効です（ロイヤント乳剤、ワイドアタックSCなど）

### 参考文献

飯島敏之ら（2024）.「水田帰化雑草ナガボノウルシの熊本県における発生と生育特性」  
「ナガボノウルシの熊本県における分布と、中・後期剤の効果」、『一般社団法人日本雑  
草学会第63回大会講演要旨集』、pp51-52